

# 洛友会会報

京都大学電気系専攻内  
洛友会  
〒615-8510  
京都市西京区京都大学桂  
075-383-7014  
www.rakuyukai.org

## 元気出せ日本の農業

四国支部支部長 武智 泰三（昭40年卒）



### わが国の農業の現状と課題

#### はじめに

最近わが社では農業生産関連の研究開発にも取り組んでいるが、その事業を通してわが国の農業の抱える問題の深刻さ、わけても安全保障の問題ともいえる低い食糧自給率には改めて危機意識を持った。今すぐにも国内産地の活性化と農業の改革を加速させる必要がある。

(1) 低い食料自給率  
1965年に73%であった自給率（カロリーベース）は2000年頃には40%まで低下したまま、OECD加盟国30ヶ国中28位と先進国中最低の水準である。今日世界人口が爆発的に増加する中、耕地面積は拡大していないこと、地球規模での気候変動などを考え合わせれば、日本の食糧安全保障はきわめて脆弱といわざるを得ない。

(2) 担い手の減少と高齢化  
農業就業人口（自営農業が主業）は10年前の410万人から330万人まで減少しており、そのうち65

歳以上の割合が58%と増大している。日本の総人口比でみた高齢化率が20%であるのに比べて、農業における高齢化が極端に進んでいることがわかる。そして後継者が確保されているのはわずか7%程度である。今後認定農業者制度などにより意欲や能力のある担い手を明確化し、育成、確保していく必要がある。地方では活性化のために団塊世代のリタイヤにあわせ、Uターンによる新規農業人口増を期待する向きもあるが、趣味や健康とする農業では多くは望めない。

(3) 低収益性と付加価値化の遅れ  
食品産業（外食、流通、加工）ではこの30年で収益性はおよそ3倍に増加したが、農業の収益性はほぼ横ばいとどまっている。生産サイドの変革と経営安定化がとりわけ重要であるが、支援者やマーケットサイドを含めた新たなアグリビジネスモデルの構築と農業の産業化を進める必要がある。

(4) 耕作面積の減少  
農家数285万戸の経営耕地面積361万ヘクタールのうち52万戸において、14万ヘクタールの耕

地放棄や非農業用地への転用が進んでいる。集団営農や法人による大規模農業により農地の有効利用や生産性の向上を図る必要がある。

#### (5) 環境保全と食の安全

豊かな自然環境や美しい景観を持った農村に対する国民の関心が高まるとともに、毎日の食卓の安全を希求する声が大きくなっていく。地場産の生鮮な無、減農薬食品は消費者の間で次第に需要が増大している。地域の個性、多様性を重視して、価値観を共有する都市住民などの参画を得た持続的、循環的農業が求められている。

#### 農業復興に向けての取り組み

政府もこのような状況に手を拱いているわけではなく、新食糧法（1995年）や食料、農業、農村基本法（1999年）により市場原理導入による農業再生に向けた規制緩和がはじまっている。また、2005年には食料、農業、農村基本計画を見直し、担い手の育成、供給コスト縮減、食育の推進、新技術導入、農村における男女共同参画推進などさまざまな切り口で

農政改革を進めている。食料安定供給はもちろん、国土、自然環境の保全、文化の伝承、食品産業や消費者との連携など多面的な支援策が望まれる。また近年機運の高まっている産学官連携を農業分野にもっと拡大していくことが望まれるが、そのためには農業者サイドの連携拠点をさらに充実、強化することが重要である。

#### 地域農業の取り組み事例 J A 土佐れいほく八〇（ハチマル）構想

力強い農業の復興に向けさまざまな支援、連携協力が必要であることはいうまでもないが、大事なことは農業者自ら自律的に経営感覚豊かな取り組みをしていくことである。ここでは、地域循環型社会の構築をめざし積極的な取り組みを行っている高知県 J A 土佐れいほくの事例を紹介しておく。

#### (1) J A 土佐れいほくの現状

5町村からなる農業協同組合で管内農業従事者数は15,200人、過去5年間で約1割の人口減少となり、農業従事者の平均年齢は65・4歳と高く過疎化、高齢化が否

応なく進行している。標高2000 (1800メートル、農用地率1・8%の典型的山間地域である。米、野菜、花卉花木、畜産等の農業生産販売額は年間約16億円である。

(2) れいほく八〇構想

高齢化により農産物の消費作業が困難になったことを逆手に取り、減農薬栽培や環境保全の取り組みを上げようとの思いから、環境をテーマに資源循環や環境保全をめざす農業に取り組み地域宣言を2001年に行った。減農薬栽培の主要野菜8品目をれいほく八菜と名付けブランド化したのを皮切りに、その他の農産品全体を八〇構想として、れいほくを丸ごとブランド化する作戦に出た。

(3) れいほく八菜の取り組み

2002年に園芸部ISO部会(205名で組織)が国際環境認証ISO14001を取得するとともに同年、第8回環境保全型農業推進コンクール大賞を、2006年には第35回日本農業賞大賞を受賞し、売り上げも3億円と着実に成果を上げてきた。

高知県では環境ISO実践農家

グループ18部会、参加農家618戸と組織拡大を進めてきているが、その中でも200名を超えるJA土佐れいほく園芸部ISO部会は自ら考え、行動する農家として活躍する先駆的リーダーである。

おわりに

エネルギーの安全保障と並んで、食糧の安全保障は等しく日本国民の問題である。「元気出せ日本の農業」の掛け声の下、生産者、流通加工業者、消費者は共通の認識に立ち、一致協力して取り組み一方、国は国民のレベルに立つて強力な支援を熱心に進めることができれば、もうひとつの豊かな国、農業大国日本の復興も夢ではない。

教室だより

計報欄にありますように、情報学研究科通信情報システム専攻伝送メディア分野の森広芳照教授(推薦会員)がお亡くなりになりました。謹んでご冥福をお祈りいたします。12月16日(土)午後11時に先生を偲ぶ会を計画しています。時間、場所など詳細が決まり次第、

ホームページ(www.rakuyukai.org)でお知らせいたします。

教員の異動

着任(平成18年9月1日付) 生存圏研究所 山川 宏 教授 (宇宙電波工学)

(平成18年10月1日付) 電気工学専攻 笈田 武範 助手 (小林研)

会員寄稿

四国アイランドリーグ

について

宮谷 茂(平10年卒)

四国以外の方、特に野球にあまり関心のない方には馴染みが薄いかもしれないが、四国の名物のひとつとして、四国アイランドリーグが最近存在感を増している。四国アイランドリーグは現行のプロ野球とは全くの別組織であり、四国各県から1チーム(計4チーム)が参加し、年間90試合を行う野球の独立リーグであり、2005年より運営が開始され今年で無事2年目を迎えている。

しかし、2004年9月、元オリックスブルーウェーブ監督である石毛宏典氏により、四国アイランドリーグの設立構想が発表された時、私は半信半疑、いや8割方構想の実現を疑っていた。

「プロ野球を目指す若者のために、野球を続けるための場を提供する」という理念は、社会人野球の規模縮小で若い野球選手の受け皿がなくなりつつある状況も手伝い、多くの野球愛好家に好意的に受け取られた。野球愛好家の一人であり、アメリカのメジャーリーグやサッカーのJリーグの地域密着経営の成功を指をくわえて眺めていた私にとってもこのアイデアに反対する理由はなにもひとつなかった。

感じた人間はごく少数であったと思われる。

しかし、否定的な材料には事欠かない状況ではあったが、これらの問題は何かクリアされ、現実にリーグは運営されている。私は無責任な第三者であるが、多くの関係者が東奔西走したのは想像に難くない。実際に試合を観戦に行くこと、決してレベルは高くない(地方の大学野球レベル)ものの、将来の飛躍を夢見て選手は全力でプレーし、地元の観客が選手の1つ1つのプレーに歓声を上げる光景を見ることが出来る。このような環境を実現してくれた関係者の方々には野球好きの一人としてただただ感謝の一言である。

四国アイランドリーグは、2005年度は約3億円の赤字となり、今年も観客動員では苦戦が伝えられている。しかし、昨年はプロ野球に2名の新人を送り出し、プロ野球を目指す若者に、四国アイランドリーグがプロ野球への道となりうることを示した。また、今年度は、西武ライオンズの松坂投手の弟や、ジンバブエ出身の野球選手も入団し、プロ野球とは一味違った魅力を伝えるべく様々な試

平成18年度懇話会の開催(ご案内)

電気系教室では在校生と卒業生の親睦をはかり、在校生に先輩からのメッセージを伝えて激励をするため、例年、懇話会を開催してきております。昨年度からは教室と洛友会の関係をさらに強化して、懇話会を両者で共催しております。本年度は吉田キャンパスにて、企業関係側からは藤洋作様(S35卒)と平田康夫様(S40卒)、名誉教授側からは山田公先生の3名を講師としてお招きして、以下のようなプログラムでご講演をしていただくことになりました。会員の皆様には奮ってご参加をいただき、この機会にぜひ在校生や教職員との親睦を深めていただければ幸いです。

ご案内webページ

http://www.kuee.kyoto-u.ac.jp/dp/inside/ob/konwakai.php

(学科長:佐藤, 専攻長:北野, 和田)

記

日時:平成18年11月17日(金) 14:00~19:00

場所:吉田キャンパス電気総合館大講義室

懇親会:生協吉田食堂(旧教養部)

プログラム

14:00~14:10 (10分) 開会挨拶

14:10~15:00 (50分) 山田 公先生(京都大学 名誉教授)

(仮題)「ナノテク加工技術、

—クラスタイオンビーム、その後—

15:00~15:50 (50分) 平田 康夫氏(株KDDI研究所 会長)

「進化を続ける情報通信」

15:50~16:10 (20分) 休憩

16:10~17:00 (50分) 藤 洋作氏(関西電力株 前取締役社長)

「最近のエネルギー事情と関西電力の取り組み」

17:30~19:00 懇親会(生協吉田食堂2F)

(会費:社会人:3,000円、学生:無料)

みを行っている。が、選手や石毛代表を中心としたプロ野球、社会人野球や大学野球と比較すると、四国アイランドリーグは組織が非常に脆弱である。関係者はそのような状況の中でも前向きに日々努力を積み重ねていく。私は幾許かのお金を払って試

合を観戦するぐらいしか四国アイランドリーグには貢献できていないが、彼らから多くの刺激を受け、これまでより日々を前向きな気持ちで過ごすことができています。数々の困難はあろうかと思うが、四国アイランドリーグには、今後もリーグを継続し、若い野球選手に夢を与える存在であってほしい。そして野球を通じて私達に刺激を与える存在であってほしい。また、野球に関心の薄い方には、野球は人々を前向きな気持ちにさせることができることを知り、機会があればそれに関わる人々を応援してほしい。決して私が週末にソフト

ボールの練習に行く(私は会社のソフトボール部に所属)のに冷たい視線を浴びせる妻への言い訳ではないのだけれども...

とある球技

笠川 隆(平10年卒)

現在の部署に異動して約一年半になる。異動に際し、とある球技“を始める羽目になってしまった。学生時代には、「あんなもの面白いのかな」と言っていた私がある。そう、ゴルフを始めるこ

とになってしまったのである。所謂、私もサラリーマンである。担当の慰安会はほぼゴルフで決まりらしいし、上司が上手で好きだというのであれば、動機は何であれ始めるのが無難である。そんな消極的な動機からゴルフを始めることになった。ゴルフをされる方々の多くはそういった動機から始めたのではないかと思うのだが、いかがでしょうか。何はともあれ道具が無くては始まらないので、クラブを買いに行くことにした。

普通を考えて、始めてすぐに出来るわけがない。これは空振りじゃなく素振りの練習なのだと言いきに考え、たまに当たる快感を覚えつつ2時間くらい黙々と振り続けたい。なにこそと無理矢理にでも暇を見つけて週一回のペースで練習場に行く日が続いた。

店に入ってみると、山ほど商品がある。手ごろな中古のアイアンセットをとりあえず買う事にした。SとかRとか表示してある。何のことか店員に聞いてみると、シャフトの硬さの事らしい。どちらがいいのか聞いてみたところ、「力がありそうだし、Sで良いと思いますよ」とのこと。自分では痩せていると思っているので、なんと適当だと感じつつも、言われるがまま購入し、笑顔の店員から見送りを受けて家に帰った。30歳目前にして、生まれて初めてゴルフ練習場に足を運んだ。なんとなく振ってみる。また振ってみる。しかし、当たらない...

アイアンを購入後2ヶ月程して、コースにデビューすることが決定した。その頃になるとアイアンにはボールが当たるようになってきた。三千円程で中古のドライバーを買ったが、練習場でも全く当たらない。とは言っても、捨てるのももったいないのでとりあえずバックに入れておくことにした。もっともその頃は、アイアンとドライバーの打ち方の違いがよく分からない程度の腕前であったことであることを付け加えておく。とうとうプレー当日、緊張のテイション。案の定当たっただけで、飛ばしてやるぞという気持ちとは裏腹に、ボールは勢いよく転がりながらフェアウェイの手前の芝の中へ。しかし、今から考えれば当たっただけマシである。前日に先輩から譲ってもらったパターを使い、何とかホールアウト。

スコアは132。そんなもんだと言者有り、初めてにしては上出来だと言者有り。私としては、何とか終わったという思いで一杯の一日だった。その日は、ドライバーで打とうなどという気はさらさら無かった。

それ以来、コースに出ること4回。ドライバーの重要性に気づき、早速買い替えて練習に励み、これまでの最高スコアは108である。いつか100を切れたらいいなというのが私の現時点でのささやかな望みである。とはいってもの、今まではミスをなくせば1打減ってきたわけだが、これから1打少なくなるには、積極的に狙っていかなくてはならない。上達するには、受身のプレーよりも自発のプレーが求められることになるのである。ところが、実現させるには相当の練習と勉強が必要になるなとうすうす感じ始めてきたこの頃である。

今日に至るまで、いわば我流でやってきたわけであるが、それでもゴルフというのは色々な意味で面白いものであると感じている。まず、ゴルフは球技であるが、止まった玉しか打てない球技なのである。数ある球技の中で、止まった玉を打てるのはゴルフとゲートボール、ビリヤードくらいのものである。加えて記すならば、たった一つの玉に対して様々なクラブを使用する点である。一つの球を打つただけに、最大14本のクラブの使用が認められる競技は、ゴルフ以外に私は思いつかない。

自己責任という言葉が紙面を賑わせた時期がかったが、ゴルフはその言葉の本来の精神をまさに地で行っていると思う。ゴルフをされたことのある方は、悪意を持ったプレイヤーのためにゴルフのルールは書かれていないことに気づいておられることかと思う。スコアでも何でもその気になればいくらでも誤魔化すことは可能である。しかし、プレイヤーは何故そうしないのであろうか。とある球技について「あんなもの面白いのかな」と言っていた、かつての自分に聞いてみることにしよう。

## 40歳からのランニング

大矢 智之 (昭62年卒)

思い立ってランニングを始めて

みることにしました。学生時代も含めて、これまで運動には全く縁がなかったのですが、卒業後20年近く、体重はじわじわ増加する一方で毎年の健康診断もボロボロ、メタボリック症候群などという言葉も気になってきます。そろそろ健康にも気を遣わねばと、ダイエット目的で走ることにしました。

根っからの理系人間なので、まずは計算です。ビール中ジョッキは約200kcal、ジョギングの消費カロリーはおおよそ8kcal/分なので、25分走らなければなりません。体脂肪は7、200kcal/kgに相当するので、フルマラソン3回くらい走ると1kg体重が減少する計算です。しかも日頃の運動不足がたまって、最初は10分も走ると息が切れてしまいます。これはなかなか手強い挑戦になりそうです。

調べてみると、速いランニングか遅いランニングかによらず、総消費カロリーは走った距離にほぼ依存するようです。しかも遅いランニングだと、グリコーゲンより脂肪を消費割合が多くなり効率的とか。低い負荷で長時間走るためには、心拍数を監視して運動するのがよいようで、早速ランニング

用の心拍計を購入です。腕時計に目標心拍数を設定しておく、ペーシングの上げ下げをアラームで警告してくれる優れたもので、楽に距離が伸びるようになりました。

しかし、カロリー消費だけはいくらがんばっても限界がありますので、ダイエット目的だと、摂取の方も工夫しなくてはなりません。幸いなことに、ランニングしている最中は空腹を感じませんし、走り終わってもしばらくは食欲がわかきません。さらに、もの本によると、空腹時には膵臓からグルカゴンが分泌され脂肪の溶出が活発になるとあります。これは、腹が減ったら走るしかない、という訳です。朝食前のランニングが正しいというのも道理です。

ランニングがある程度習慣化してくると、道具にも凝りたくなってきました。有史以前から人間は走っているわけで、安上がりなスポーツだと思っていました。用品店に行くとき最新モデルと称するものがたくさん並んでいます。ランニング雑誌で勉強すると、どうやら、走り方も日々進化しているようです。フラット走法などが流行で、それに適したシューズが開発

されているようです。そういえば、マラソンの世界記録も毎年のように更新されています。急に人間が進化するはずもないので、ランニングでもやはり道具が重要なようです。

ランニングを続けて数ヶ月くらいすると、徐々にではありますが、結構長時間走り続けることができるようになってきます。そうなる、いつもの周回コースを走っているだけでは物足りなくなつて、週末などに遠出をしたくなつてきます。普段、電車や車でしか行かないところまで自分の足で行くことができるのは楽しいものです。距離がわかっているコースだと、ペースを確認しながら走ることができるのですが、知らない道だとそうはいきません。最近ではランニング用に腕時計タイプのGPS受信機も販売されているので活用してみました。小型でもかなり高精度で、条件にもよりますが、数m程度の誤差で計測でき、ランニングのペース管理としては申し分ありません。一般道を走ると信号待ちなどペースを乱される要因も多いのですが、立ち止まった時間は自動的に差し引いて表示してく

れ、至れり尽くせりです。Internet 上には、走った軌跡を Google Earth に表示させるようなツールもたくさんあり、こんなところにも最新の IT の波が押し寄せているものだと実感します。

ランニングを始めて、かれこれ一年が経過しました。季節に合わせたウェアや、小物など、結構物入りな趣味だというのが分かって驚きですが、約 20 kg のダイエットにも成功し、10 km 程度のマラソン大会に何度か出場するまでになりました。走った後のビールは最高ですし、カロリーを気にするようになってからは特に、心おきなく飲むために走るといのがすっかり習慣になりました。昨年度、日本国内で開催されたフルマラソン (42.195km) を一度でも完走したことのある人の数は 82、930 人で、一昨年に比べて 5% の増加だったそうです (のべ人数ではなく、重複をすべて除いた純粋なフルマラソン人口です)。フルマラソンまでは無理という人がほとんどだと思いますので、相当な人がランニングを楽しんでいると思います。しかもフルマラソン人口分布のピークは 30 歳〜40 歳で、70 歳

を超えて完走する人も 500 人以上います。まだまだ初心者ですが、これから長く楽しんでいこうと思っています。

同窓会だより

海拔 4200メートルの同期会

平成18年9月5日、電気電子昭和34年卒の同期会を海拔4200メートルのハワイ島マウナケア火山頂上にある国立天文台すばる望遠鏡で開催しましたので報告します。数年前から天文台や宇宙開発の世界に太い人脈を持つ同期生の畚野信義君のお誘いを受けていたのですが、ようやく実現する運びになりました。しかし高度馴化を必要とする高山であることから辞退される同期生もあり、結局、長尾真洛友会長を含め同期生13名、家族3名、それに特別参加の木村磐根洛友会幹事を加え、総勢17名の参加でした。

天文台との交渉、現地のマイクロバス、防寒着、弁当の手配など面倒な準備を全て畚野君にお願いしたまま、9月4日、参加者は軽

装で三々五々ハワイ島ヒロ市に現地集合。余裕を持って前日に入った方も数名あり。4日は3台のレンタカーに分かれてハワイ島を探るワイピオ溪谷を探索。2台はキラウエア火山とchain of craters roadへ、そのうちの1台は溶岩流の先端が水蒸気をあげて海中に没する状況を踏査。夕食はホテル毎に取ったが、翌日の高度馴化に備え禁酒禁煙禁芋類豆類で全然氣勢が上がらない。



5日早朝窓外を見るとヒロ湾越しにマウナケア山が朝日に赤く染まっている。素晴らしい景色だ。山頂にドームが三つ見える。すばるはどれだろうか。この山は溶岩の粘度が非常に低いのでドラドラと裾野が長く、富士山より高いとは到底思えない。8時半 Jack's Com 社のドライバー付のマイクロバスと畚野君の車の2台に分乗して出発。出発前に Jack's Com 社の賠償免責書、危険承諾書に署名する。10時ビジターセンターのある Onizuka Center 着、国立天文台の林左絵子助教授の出迎えを受け、本日の見学のスケジュールや注意事項を聞く。ヒロ勤務8年とのこと。このような才気煥発の女性が宇宙研究の最先端で頑張っておられることを知り頼もしい限り。ここで再び国立天文台の賠償免責書、危険承諾書に署名する。死亡リスクが原子力発電所よりはるかに大きいと言うことだろうか? Onizuka Center は高度 3000メートル、既に樹林帯を抜けた岩屑の間から乾燥地特有の植物が花をつけている。30分の高度馴化のち出発、11時山頂に着く。山頂は見渡す限り火山の溶岩礫に覆われた月世界のような風景である。観測環境は平均気圧 2/3 気圧、夜間の気温零度、晴天率 65%。

冬は吹雪の日もあるとのこと。こは 11カ国の経営する 13の望遠鏡が集まる天文台銀座である。その中で一際目立つ大型の観測所がすばる望遠鏡。

林助教授と高見英樹助教授の出迎えを受け、すばる望遠鏡の円筒形のドームに入る。ドーム内は日中も零度に保たれている。これは夜になって観測を開始するときドームの内外の温度差が無いようにとのこと。温度差があれば当然空気が揺らぎ観測精度が落ちる。防寒着と手袋をつける。呼吸は胸部 X線撮影時のようにいっぱい吸い込みしばらく止めてゆっくり吐く。歩行はゆっくり。林助教授と高見助教授の2班に別れ見学開始。すばる望遠鏡は 1992年7月山頂で起工式、1999年1月試験観測開始、総工費 400億円。主鏡は口径 8.2 m、厚さ 20 cm、22.8 トン。主鏡で受信し反射した光を上部の副鏡で再び反射して観測装置に導く。副鏡は用途に応じて交換するが主鏡の上に位置するため作業中に工具を落とさないことが最重要。原子炉の中で工具を落とさないことと同等か、可視光、赤外線、紫外線の波長に応じた波長分解

能に応じた8個の観測装置が主鏡の周りの円形のレール上に所狭しと並んでいる。使用中の観測装置の下部に回ると無数のケーブルが錯綜し、これまた原子炉の下部に似ている。すばる望遠鏡、ヒロ山麓施設、三鷹本部は専用ネットワークで直接つながっており、観測装置で得られたデータは5分以内に送信される。

主鏡、副鏡、観測装置間の見学の移動であるが、エレベータで移動すると気圧の急激な変化がきつい、階段を上ると動悸が激しい、2/3気圧での見学はなかなか大変である。Onizuka Centerでの高度馴化の甲斐なく13人の同期生のうち3人が短時間酸素タンクのお世話になる。70歳の日本人男性の高度馴化能力に関する貴重な統計データである。2人の女性参加者は強い。1時に「Jacks, Tou社用意のお弁当、食欲があるのかないのか自分でも分からないまま結局一粒残さず食べる。林助教の弁当はご夫君作成の愛夫弁当。

午後は米国スミソニアン天文台と台湾の共同経営のサブミリ波干渉計の見学。クリスチャンスン氏の説明にてでくるサブミリ波とギ

ガヘルツを換算しているうちに説明はどんどん進む。干渉計ということで10個足らずの同型の大きいアンテナが距離を置いて整然と並んでいる。さらに英、蘭、加の三カ国共同のジェイムズ・クラーク・マクスウェル望遠鏡を見学。これはサブミリ波の望遠鏡。クレイグ氏のスコットランド訛りの説明を受ける。ここの自慢は帆船の帆のような巨大な風除け。

3時山頂を出発し、Onizuka Centerで小休憩、4時半ヒロ山のハワイ大学内に設置されたヒロ山麓施設に到着。ここで高見助教から「すばるレーザーガイド星補償光学系プロジェクト」の説明を受ける。これは空気の揺らぎの影響を瞬時に補償し、望遠鏡がたかも宇宙空間に存在するかのよう

に観測することを可能にする装置である。電離層にレーザーを当てて見かけ上の人工の星を作り、その星の観測の揺らぎを瞬時に補償するよう鏡面を制御する。この装置は近々実用に供されるが、これにより宇宙空間に浮かぶ米国のハブル望遠鏡と競争できることになり。宇宙の起源についての新しい発見の報がこれまで以上に続々と

日本から全世界に発信される日は近い。畚野君は高見助教の元上司とのこと。最後に高見助教自ら天文台ロゴ入りのTシャツその他のお土産グッズを満載した段ボールを持ってきて下さる。Tシャツ1枚を購入、10ドル。思えば林助教と高見助教はわれわれのために丸々一日を割いてくださった、ただただ感謝。林助教のご夫君である林所長の見送りを受け、あまりにも充実した一日に少々疲れを覚えつつホテルに向かう。

5日夜の全員参加の打ち上げ会には数名が天文台ロゴ入りTシャツで参加。禁酒も解け、やや豊富な体型のダンサーがステージ上でフラを踊るのを横目に、波乱に満ちた一日を改めて嘔み締めつつ、また、このような素晴らしい同期会を企画し実現してくれた畚野君に感謝しつつ、会はとどめなく盛り上がった。打ち上げ会の終了をもって同期会は現地解散となった。6日以降、キラウエア火山探

索、ハワイ島一周ドライブ、ワイキキの浜辺での水泳など思い思いの休日を通したが、なかでも深尾君と松田君は11時間を掛けてマウナロア火山(4169メートル)

の登頂に成功するという快挙を果たした。6日、ヒロからホノルルに向かう機上からマウナケア火山とすばる望遠鏡を探すが雲に隠れて見えない。でもいい、もう充分楽しんだのだから。

青木 英人(昭34年卒) 記

**獅子の会卒業38周年**

**(還暦祝賀) 同窓会**

平成18年4月29日(みどりの日)

夕刻、東京において昭和44年卒業生(昭和40年入学、44年学部卒業、46年修士修了)の卒業38周年記念同窓会を開催しました。平成11年に卒業30周年記念同窓会を開いており、次は35周年の予定でしたが、少し遅れて「還暦大祝賀会」ということになりました。(ちなみに、同窓会名「獅子の会」は44年卒からきています。)

板谷良平先生、西川禪一先生、木村磐根先生の3先生にご臨席いただきました。九州、四国、関西、北陸の遠方からの参加者や卒業以来初めてという参加者もあり、時間厳守のためのタイムキーパー付き近況報告(それでも時間超過する

者あり)や思い出話に3時間余りがあつという間に過ぎました。次の再会を楽しみに、話し足りない参加者は三々五々二次会へ、ということでも散会となりました。

来年からは、毎年京都と東京で交互に開催することにし(来年は京都で開催予定)、毎年開催する分はメール連絡により通知、5年に一度の開催(今回は京都)は、はがきによる連絡もすることになりました。

浅谷 耕一、大澤 靖治

(昭和44年卒) 記



支部だより

中国支部総会報告

平成18年5月26日(金) ホテルサンルート広島において第53回目となる平成18年度洛友会中国支部総会が開催されました。総会には本部から木村先生、教室から小野寺先生をお迎えし、中国地方各地から35名の会員のご参加をいただき、盛大な総会となりました。

総会は、開会にあたり細田支部長からご挨拶をいただき、引き続き支部事務局から支部会員異動



状況、支部活動状況を報告、会計決算、予算案、支部役員の改選案について説明・提案を行い、出席者全員の了承を得て各案が承認されました。

続いて木村先生から洛友会本部の近況について、また、小野寺先生から大学の近況について、それぞれお話しいただき、予定どおり全ての議事を終了しました。

総会終了後、記念撮影を行い、昭和22年卒業で広島工業大学の総長を務められておられる高木先輩のご発声により支部恒例の懇親会を開始しました。支部会員の思い出話、近況報告等々、終始和やかな談笑の中で大いに懇親を深めながら会は進み、最後は、木村先生のご発声で支部懇親会をおひらきとしました。

岩見 紀征(平8年卒) 記

中国支部 第10回ゴルフコンペ開催

中国支部では、平成18年5月27日(土)チェリーゴルフクラブ(広島県廿日市市)にて第10回ゴルフコンペを開催しました。

年1回の恒例行事となっている



当ゴルフコンペも今回で10回目となりましたが、今回は初めて洛友会中国支部総会の翌日に開催し、本部の木村先生も交え、昭和25年卒から平成9年卒まで幅広い年齢層の方々にご参加いただきました。当日は朝からあいにくの大雨で開催も危ぶまれましたが、参加者の熱意により決行し、10名の参加者は優勝を目指して真剣に、かつ楽しく和やかにプレーを満喫でき、プレー後の表彰式を兼ねた懇親会でも大いに盛り上がりました。今回の優勝者は、コンディションの悪い中、グロス、ネットともにトップの素晴らしいスコアを記録された石田隆弘氏(昭和25年卒)、第2位は惜しくも優勝を逃した細田順弘氏(昭和40年卒)、

第3位は僅差で近藤純一氏(昭和50年卒)でした。

当支部のゴルフコンペは恒例行事としてさらに充実していきたいと考えています。次回以降も支部全員にご案内しますので、多数ご参加いただきますようよろしくお願いいたします。

藤山 徹(平9年卒) 記

中部支部総会報告

平成18年6月24日(土)午前11時から、名古屋駅前の名鉄グランドホテルにおいて、平成18年度中部支部総会を開催しました。本部からは木村磐根幹事、教室からは北野正雄教授にご出席いただき、支部からは29名の参加を得ての総会開催となりました。

議事は増田支部長の挨拶に始まり、前年度事業・決算報告、今年度事業・予算計画審議が行われ、全会一致で承認されました。

総会に引き続き、木村本部幹事から本部の状況報告として、会則改正、名簿掲載アンケート結果、会費納入状況などの説明がありました。会費納入については、今年よりコンビニからの振り込みが可

能となったことから、納入率が件数で26%、金額で36%増加しているとのことでした。繰越金が年々減少している当支部の現況においては、当支部所属会員からも同様の状況であることを切に願うところです。北野教授からは、就職状況、教室の抱える課題等について説明がありました。京都大学においても、学生の学力低下(理科離れ)、志の低下が懸念されるとのことでした。「ゆとり」に置き置きすぎた大学以前の教育のあり方を見直すべきではないかと思う次第です。



お二人の説明の後、全員での記念写真撮影を行い、懇親会へと移行しました。今年には多くの会員参加を得ることが出来、例年通り全員に近況報告をして頂くと予定時間を大幅に超過することが懸念されたため、新しく当支部管内へ異動された昭和43年卒の廣川様、堀様を始め10名のみ挨拶とさせていただきます、出来るだけ歓談の時間を取ることにしました。しかし時間の過ぎるのは早く、木村本部幹事指導のもと全員で「洛友会(同窓会)の歌」を唱った後、同日夕刻の東京支部総会にも出席される同幹事を先にお送りし、最後に「逍遙の歌」を合唱して、杉谷副支部長の締めで散会となりました。

松浦 昌則(昭53年卒) 記

### 東北支部総会報告

7月1日(土)、仙台市内の「ホテル法華クラブ仙台」で平成18年度東北支部総会が開催されました。本部より長尾真会長の御出席をいただき、東北支部会員は初参加の1名を加えて8名が出席しました。総会に先立ち、長尾会長より「ユニバーサル・コミュニケーション

の時代・充実した情報空間の建設に向けて」と題して御講演をいただきました。内容はインターネット時代・ユビキタスコミュニケーション時代における最先端の研究開発の動向や、ユニバーサルな翻訳、言語産業・知識産業、コンテンツ産業、オンデマンド通信などの情報産業の新しい分野についての話題など多岐に亘り、更に、長尾会長が理事長を務められる「情報通信研究機構」の概要についてもお話し頂きました。講演



平成18年度東北支部総会出席者

(敬称略)

前列左より、三上(昭21、内山(昭41)、長尾会長、伊藤支部長(昭37)、三輪(昭34)、後列左より、伊藤(平元)、井上(昭48)、川波(昭36)、秋山(昭57)

後、参加者から多数質問が寄せられ大いに盛り上がりました。

次に、総会に移り、まず、伊藤支部長から本部役員会や改訂された洛友会会則などについて報告がありました。議事では、決算、予算案、支部役員改選案が参加者の全員一致で承認されました。続いて、その他の議題の中で、雑誌「Cue」の内容について、もっと読んでもらうため全体的に難解な内容を更に読みやすくするか、体裁をカラフルにするなど、多くの意見が出され、長尾会長より大いに参考になる、とのコメントをいただきました。

総会終了後の懇親会では、久しぶりに顔を合わせた者同士で同窓会のあり方から大型計算機開発の歴史、昨今の教育状況まで話題が広がり、議論に花を咲かせました。最後に、記念撮影をし、来年の総会(19年6月16日(土))に決定での再会を約して散会となりました。

秋山 康人(昭57年卒) 記

改選された支部役員(敬称略)

支部長 伊藤貴康(昭37)

副支部長 内山秀男(昭41)・新、井上茂(昭48)・新

評議員 大家寛「顧問」(昭34)、三上謹五(昭21)、三輪修(昭34)・新

幹事 秋山康人(昭57)・新 以上

### 本部だより

洛友会名簿の件、過日お送りいただきましたアンケートでは修正箇所が多かったため、最近やっとすべてのコンピュータ入力完了し、名簿の編集ができる態勢になりました。ただ、お送りしたアンケート5916通のうち、宛先不明で戻ってきたものが500通近くあり、実際アンケートをご返送頂いた数は3166通でした。ご回答の中で住所、勤務先、メールアドレス等で名簿掲載を×にされている方もかなりありました。それでも予定通り本年中に発行する方向で準備を進めております。

今回からメールアドレス欄も入れますので、これまでのB5版の縦型でなく、横型に変えること、勤務先別のページは、各勤務先にご氏名と卒業年次のみリストとすること、などの大幅な変更をいたします。まずは卒業年次と

氏名は全員掲載されますが、住所、勤務先、メールアドレス欄等の抜けた方が多い名簿になります。印刷された内容は正確を期したものにすることを最重点に進めておりますので、ご理解のほど宜しくお願い致します。

なお個人情報保護の観点から、頂いたデータの管理は漏洩等のないよう十分注意を致しますが、各支部の活動のために支部会員の連絡先等は各支部の幹事の方にはお知らせすることにしてありますので、その点ご理解をお願い致します。また各学年のクラス会開催等で連絡先の必要な場合の対応も洛友会本部事務局の判断で致しますので、本部事務局に直接ご連絡下さい。

### 訃報

講昭14	渡辺 一見	18・7・11
昭14	石谷 昇	18・9・18
昭15	板倉 清保	18・7・3
講昭16	徳田戸兵衛	17・5・15
昭37	辻本 巖	18・6・11
推薦	森広 芳照	18・9・29

以上の方がご逝去なさいました。謹んで哀悼の意を表します。